

南相馬市教育振興基本計画 後期計画

令和2年度～令和5年度

「自ら学び、自ら考え、生きぬく力を育むまちづくり」

復興を超えて、新しい南相馬へ

～自らの力で社会を創造する人材の育成～



令和2年3月
南相馬市教育委員会

「自ら学び、自ら考え、生きぬく力を育むまちづくり」

復興を超えて、新しい南相馬へ
～自らの力で社会を創造する人材の育成～

南相馬市教育振興基本計画後期計画
令和2年度～令和5年度

はじめに

南相馬市教育委員会

教育長 大和田 博行



東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故から9年が過ぎました。震災時の小学1年生は、今年高校1年生となりました。現在、義務教育を受けている子どもたちは、震災後の入学生です。幼少期における度重なる避難経験や原発事故後の屋外活動の制限、それに伴う対人関係スキルの未熟等は、今でも学習や体力・運動能力、生徒指導などに大きな影響を及ぼしています。

子どもたちが成長し活躍するこれからの社会は、少子高齢化の進行、AI（人工知能）をはじめとする技術革新やグローバル化の加速、環境問題の深刻化など社会状況が大きく変化し、予測が困難な時代になると思われます。

しかし、私たちの郷土を支えていくのは、私たちの目の前にいる子どもたちであることは間違いありません。そして、子どもたちは無限の可能性を秘めています。目の前の子どもたちに対する着実な教育活動を地道に積み重ねていくこと、人生100年時代を迎え、豊かな人生を送ることができるように生涯を通して学び続け、地域の発展のために活躍する姿を示していくことが私たち大人の使命であると考えております。このような思いのもと、目指す子ども・市民の姿を次のように定め、その具現に向けて教育行政を進めてまいります。

夢と希望を持ち、挫折や苦難に負けない

生きくぬく力が備わった子どもたちの育成

生涯を通して成長し、新しい南相馬市を創造することができる市民

結びに、計画の策定にあたりましてご尽力をいただきました南相馬市教育振興基本計画策定委員の皆様はじめ、貴重なご意見を頂きました市民の皆様から感謝申し上げます。

目次

第1編 南相馬市教育振興基本計画後期計画の策定にあたって

第1章 計画の策定趣旨	3
第2章 計画の構成と期間	6
第3章 南相馬市の教育に関する現状と課題	7

第2編 南相馬市教育振興基本計画後期計画

第1章 教育施策の基本目標	34
第2章 教育施策の展開	39
学校教育	40
生涯学習・スポーツ	50
文化	58
幼児教育	62
第3章 計画の推進体制	66

資料編
